

農繁期に入りました！ 農業機械・農作業の安全確認を行いましょう！！

< 水稻育苗管理はハウス内の『高温』に注意して下さい!! >

管内の種まきは、早い方で4月初旬からスタートし、4月10日頃にピークとなりましたが、天候にも恵まれ順調に経過しております。

朝から晴天の場合は、午前中にハウス内の温度が40℃を超えることもありますので、早めに換気を行い高温障害には特に注意するようにしましょう。

また、圃場整備引渡し時期が5月10日頃になる地区は、種まきを急がないで4月下旬に行い、田植を5月末まで完了するように計画を立てましょう。

東北地方 1か月予報(4月9日～5月8日)

【特に注意を要する事項】 前半は気温がかなり高くなる可能性があります。

< 向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確立(%) >

【 気 温 】東北地方	10	40	50
【 降 水 量 】東北地方	30	40	30
【 日 照 時 間 】東北地方	30	40	30

凡例： ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

< 気温経過の各階級の確立(%) >

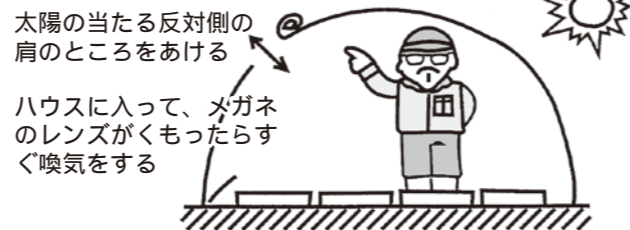
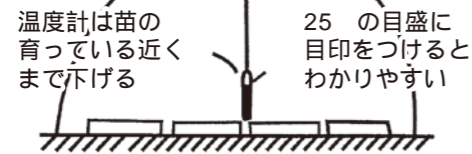
1 週目 東北地方	20	40	40
2 週目 東北地方	10	30	60
3～4 週目 東北地方	20	30	50

凡例： ■ 低い ■ 平年並 ■ 高い

ハウス内の温度、水管理は適正に行いましょう。

ハウス内の温度は? 緑化期：日中25℃を目安に 夜間15℃前後(10℃以下にならないように保温。)
注 意：低温等の肌寒いときはハウスを夕方早いうちに閉めましょう。
硬化期：日中20℃を目安に 夜間10℃～20℃

温度管理のめやす



水 管 理

1日に何回も灌水しますと、苗は常に多くの水を要求するようになり、軟弱徒長や根張りが悪く、病害にかかりやすくなります。育苗の前半は2～3日に1回、中盤以降は1日1回の灌水とし、夕方には育苗箱の表土が軽く乾くように管理しましょう。

新しいビニールに張替した場合は温度が上がりがやすく、ヤケる心配がありますので気をつけましょう。

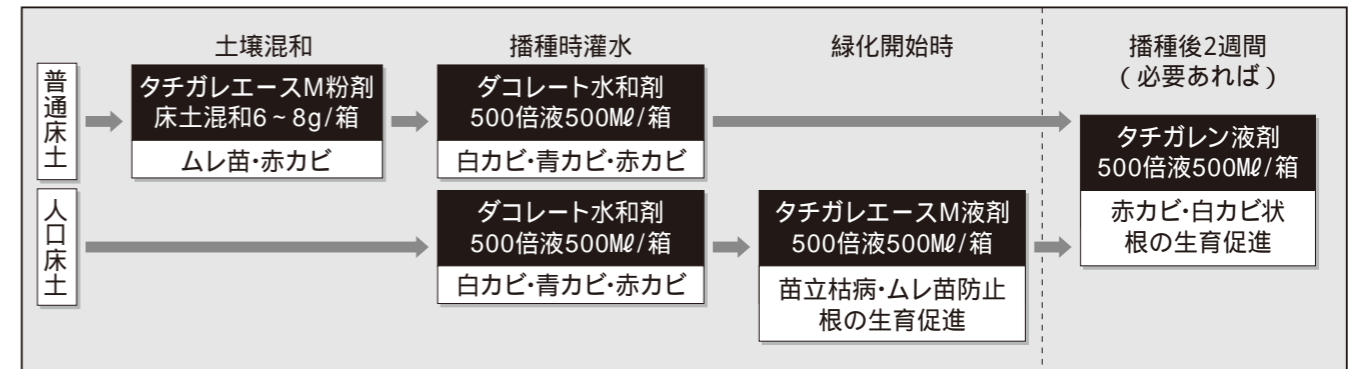
《苗の異変に気づいたら早急にご連絡を!!》

苗の生育に異常が見られた方を優先的に巡回いたしますので、その際はお早めにご連絡願います。

連 絡 先 JA本店営農部(営農企画課) TEL 022-384-2392
休日の緊急対応 090-2849-4440 又は 営農C 022-384-2151



育苗病害防除(JA米)



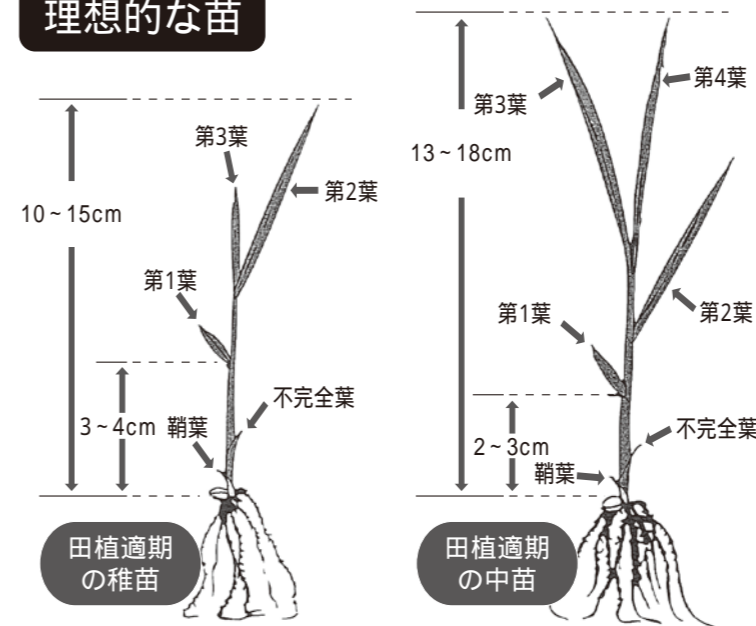
環境保全米栽培はタチガレン液剤を1回散布可能です。

1.【ダコレート水和剤・タチガレースM液剤・タチガレン液剤】500倍液の作り方

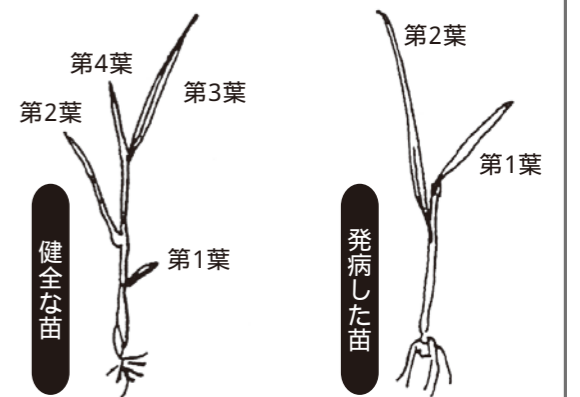
防除箱数	薬剤量(g又はcc)	水量()	防除箱数	薬剤量(g又はcc)	水量()
100	100	50	500	500	250

使用回数・希釈倍数を確認して下さい。

理想的な苗



もみ枯細菌病・苗枯細菌病の特徴



第2葉が第1葉の葉耳の部分より下から出てきて、この葉の付け根が黄色～茶色になる。この葉がやがて枯れ、手で引っ張ると簡単に抜ける。

2. 圃場整備工事後の水稻作付について(大豆転作後などを含む)

・施肥については減肥しましょう。(土壤改良剤「リン酸」を散布しましょう。)

圃場整備では、作土をなるべく均等に工事をしておりますが、実際に作付しないと土壌の特徴が分からない現状となりますので、初期生育を確保できるように無肥料ではなく3割～5割の減肥で対応しましょう。(基肥一発肥料は避けること。)

ひとめぼれ専用肥料2号 通常40kgのところを『30～20kg』

・疎植の田植えと除草剤の体系処理について

基肥の投入量や圃場条件にもよりますが、水路や農道跡が特に倒伏する可能性がありますので、栽植密度は50～60株程度で行うことをお勧めします。

また、除草剤については、大区画圃場であることを考慮して田植同時散布(粒剤)をお勧めいたします。(裏面の防除体系を参考にして下さい。)



	7月中～下旬頃
ルメガフレア箱粒剤	☆デジタルメガフレア箱粒剤 (移植3日前～移植当日まで) 葉・穂いもち病の2段階で溶出する長期型予防剤 (ピロキロン 12%) 殺虫剤は、長期残効型の予防剤 (チアトキサム 8%) ※イネミズソウムシ・ドロオイムシの予防効果と「出穂～穂揃期」の小型カメムシの初期予防効果あり。
	☆Dr.オリゼフェルテラ粒剤 (緑化期～移植当日まで) 「オリゼ」は葉いもち病の予防剤 (プロパナゾール 24%) 「フェルテラ」は殺虫予防剤 (クロラントラニプロール 0.75%) ※イネドロオイムシ・イネミズソウムシ等効果高い。

平成28年4月

平成28年産米水稻除草剤防除体系 <例>

JA名取岩沼

<除草剤の散布時期は、天候にもよりますが代播後の日数と雑草の葉齢が重要です。初・中期一発剤はできる限り『代播後10日以内に散布の完了』を目標にしましょう。>

環境保全米栽培	クサトリーDX剤 (3成分) 【ノビエ2.5葉期まで】	1キロ粒剤75	散布適期【移植時～移植後7日頃まで完了】 ⇒ 田植同時処理で散布可能	【補完防除】移植後20日～落水状態で散布
初・中期一発剤(3成分)		フロアブル		⇒ 移植後3日～7日頃まで散布完了 ※10アール当たり 40gパック×10袋
※補完防除の場合プラス1成分		ジャンボ		【クログワイ、オモダカ、クサネム等※草丈15cm以下】 水田を落水状態(ごく浅水)にして雑草全体へ直接散布する。 薬剤 100cc × 水量100リットル / 10a

体系例	移植直後	移植後 3日～5日	7日	移植後～7日頃まで散布完了	移植後20～30日	移植後35日
初・中期一発剤例	田植同時が可能⇒	アピロトップMX1キロ粒剤75		移植直後～ノビエ3葉期 まで(4成分剤) ※ホタルイ、マツパイ、ヘラオモダカ効果高い。	新規取扱 ワイドアタックSC (液剤)	★必要があれば中期剤 → 1成分⇒ノビエ5葉期まで 【クサネム・シズイ等】 ※落水状態(ごく浅水)で散布 (噴霧機で雑草へ直接散布)
	★復元田や圃場整備工事後1年目に作付する水田 等	アピロトップMXジャンボ		移植後3日～ノビエ3葉期 まで(4成分剤) ※ホタルイ、マツパイ、ヘラオモダカ効果高い。		
	田植同時が可能⇒ <普通水田栽培>	ウィナー剤	フロアブル 1キロ粒剤75 ジャンボ	移植時～ノビエ2.5葉期まで (散布適期→田植後～10日頃まで) ※ジャンボ剤も田植直後に散布登録あり。	★必要があれば中期剤 → オシオキMX1キロ粒剤 移植後14日～	☆ホタルイ・オモダカ・クログワイ等が残った水田は早めに中期剤で防除しましょう。

雑草多発・休耕後の水田へ体系防除(例)	移植後5日～7日頃散布	※代播き後から遅くとも10日以内まで散布完了	移植後20～30日頃(中期剤として散布)	30日	移植後35日
	コメットジャンボ (粒剤・フロアブル剤もあり)	移植後5日～ノビエ2.5葉期まで (3成分剤) ※イヌホタルイ、クログワイ等効果高い。	アクシズMX1キロ粒剤	登録→田植後7日～ノビエ4.0葉期 (オモダカ・クログワイ・ホタルイ・シズイ等) ※昨年発生した水田へ散布要検討	

※塊根で増殖する雑草『クログワイ・オモダカなど』やホタルイなど毎年多発する水田は、必ず除草剤の体系処理を実施すること。(2年間位継続して実施)

体系例	代播日	移植7日前	<使用登録が無い期間>	移植直後	12日	移植後15日～20日頃まで散布完了	30日	移植後35日	
通常田	エリジャンジャンボ	←いずれか1回→		エリジャンジャンボ		ブイゴールSM1キロ粒剤	移植後15日～ノビエ3.5葉期前まで 水田1年生雑草・ホタルイ・ウリカワ 等		
水もちが少し悪い	ソルネット1キロ粒剤			ベクサーフロアブル		オシオキMX1キロ粒剤	移植後14日～ノビエ4葉期前まで 難防除雑草 クログワイ・ホタルイ・オモダカ 等		
体系例	代播日	移植7日前	<使用登録が無い期間>	移植直後	7日	12日	移植後12日頃まで散布完了	30日	移植後35日
通常田	ベクサーフロアブル	7日間おいてから	→	クログワイ・オモダカ等→	アクシズMX1キロ粒剤	移植後7日～12日頃まで散布完了 【ノビエ4葉期まで】	体系処理→	ワイドアタックSC (液剤)	

※初期剤を代播後に散布する場合は、必ず7日間おいてから田植すること。 ※初・中期一発剤として散布(クログワイ・オモダカ・ホタルイ等効果あり) ※水稻直播種栽培も登録があります。